

青海ナミ

遠くの星の輝きのもとに

亡き体からさぐりだされたかけら  
両手で箱に  
治めた人の深いお辞儀が  
泣きたい感傷をすくいあげる

何もない悲しみの場所と思われた  
この人の手は 小さい頃  
自転車をよく描いていた

遠くに行った人のために  
のこった人のために  
去ってゆき残ったあとに

悲しみだけでないものを  
さがそうとする熱情が  
労わりのようにあった